

# 匠瑳探訪

⑤

## 日朗と弘智

市を代表する歴史上の人物はだれ？とたずねられたら、日朗菩薩（にちろうぼさつ）と弘智法印（こうちほういん）の名をあげるでしょう。日朗が旧野榮、弘智は旧八日市場の生まれとされています。

日朗（1245年～1320年）は、鎌倉時代に活躍した日蓮宗の僧侶で、日蓮の6人の弟子の1人で6老僧とよばれています。生まれについてはいくつかの説があるものの野手の領主印東氏の子とされ、朗生寺（ろうしようじ）がゆかりの寺とされています。

原）があります。朗生寺には1723年（享保8）日朗4000遠忌（おんき・年忌）供養塔が日顛（にちぎ）によって建てられました。日顛は木積（きづみ・豊栄地区）の生まれで飯高檀林に学んでおり、日朗の功績をしのび、朗生寺にも深くかかわったのでしょうか。

日朗より3、40年おくれて活動したのが弘智（1281年～1363年）で、大浦（匠瑳地区）生まれで、ゆかりの寺は蓮花寺です。

同時期の日蓮の有力な信者には、金原法橋（かなばらほつきよ）という金原（飯高地区）地域の領主もいて活動の足跡を残しています。

弘智は600年ほど前に即身仏（そくしんぶつ・ミイラ）となり、近年出版された本でも、「日本一有名な即身仏」として紹介されています。

日朗の活動の中心は当時幕府のあった鎌倉で、76歳で亡くなった後もその一門の流れが発展したため、その名が広く知られるようになります。

弘智の即身仏は日本海を望む新潟県の寺にまつられています。昭和30年代の本格的な調査で、日本最古の即身仏とされました。有名になったのは、300年ほど前から松尾芭蕉や文人墨客が同寺に立ちより見ていることで、紀行文などに載せられたためです。蓮花寺には弘智の木像があり、新潟県周辺から一行が同寺をたずねて来たことがあります。

市内に残る日朗関係の遺跡は、内山新田（豊和地区）に1748年（寛延元年）の供養塔、1859年（安政6年）に飯高村周辺数十か村の信者が立てた供養塔（飯高地区金

日朗も弘智も地元よりはむしろ足跡を残した地域やその周辺で知られ、その知名度は、全国的といえるでしょう。



日朗ゆかりの寺、朗生寺（野田地区野手）